

しゃめん
1面のコラム「**斜面**」を読もう

斜面

2024.7.19

半世紀前に通った県外の公立小学校は、屋外プールが自慢だった。6コースの50メートルと、低学年用の小さな

プール。石段の観覧席を備え、自校の授業だけでなく、中学校の水泳大会も開かれた。何より夏休みの格好の居場所だった◆晴れた平日は児童に開放された。ネットや携帯ゲーム機がなかった時代、どこにも出かける予定がない子どもは、自然と学校プールに集まったように思う。泳いだ後に甲羅干しをする繰り返しだったけれど、夏休みを思い切り楽しんでいる実感があつた◆「1学校に1プール」と言われるほど整備されてきた学校プールのありようが、大きく変わっているようだ。県内の公立小中学校で、自校プールを使わず、民間や公営の外部施設で水泳の授業をする事例が広がっているという。先週土曜に本紙が1面と教育面で詳しく伝えていた◆学校プールは、60年前の東京五輪に伴う政府のスポーツ振興策や高度経済成長を背景に急速に普及した。それが「お荷物」になっている。老朽化が進んで修繕には多額の費用が要る。維持管理を担う教員の負担も大きい。今の時代に合わないのは確かだ◆子どもが減り教員が不足する現状を踏まえれば、校外プールの活用は今後も進むだろう。県外では、移動のための運転手が確保できずに水泳授業そのものをやめる動きがある。子どもたちが泳ぎを楽しみ、身に付ける機会をどう守っていくか。学校任せにせず、それぞれの地域で考えたい。

斜面

2024.8.9

ホッキョクグマは訴えた。氷上で狩りができる期間が短くなった。母熊は栄養不足で、子熊の発育も悪い。地球

温暖化を引き起こしている二酸化炭素の排出は「公害」だ。火力発電で大量に出し続ける電力各社は責任を取るべきだ―と◆12年前に東京地裁に起こされた実際の裁判だ。日本と太平洋の島国ツバルの住民らが原告となり、気候変動の影響を受ける動物の代表としてホッキョクグマを加えた。地裁は、熊を当事者能力がないと門前払いにした上で、公害を認めず、請求を退けた◆温暖化対策を国や企業に迫る「気候訴訟」のさきがけとされる。9年前に国際枠組みのパリ協定が採択されて以降、こうした訴訟が世界で急増中だ。欧米では訴えを認める判決も出た。日本では原告の資格が否定されたり、地球全体の問題だからとまともに扱われなかったりする◆そんな中で、14と29歳の16人が動いた。火力発電事業者10社を相手に、パリ協定の目標に沿って二酸化炭素の排出を削減するよう求める訴えを名古屋地裁に起こした。短い記事が7日付本紙に載っている。「気候変動は将来世代の人権侵害だ」と訴えた◆頻発する災害や熱中症のリスクに直面する中で、これからの不安を感じ取っている。にもかかわらず、世界は分断や紛争に振り回され、脱炭素の機運が高まらない。気候変動に立ち向かう若者の訴えに、きちんと耳を傾ける時だ。彼らこそ過酷になるかもしれない未来の当事者なのだから。

しゃめん
1面のコラム「斜面」を読もう

ひらがなを漢字になおして書きましょう。

斜面

2024. 7. 19

はんせいきまえにかよったけんがいのこうりつしようがっこうは、おく

がいプールがじまんだった。6コースの50坪プールと、ていがくねんようのちいさなプール。いしだんのかんらんせきをそなえ、じこうのじゅぎょうだけでなく、ちゅうがっこうのすいえいたいかいもひらかれた。なによりなつやすみのかっこうのいばしょだった◆はれたへいじつはじどうにかいほうされた。ネットやけいたいゲームきがなかつたじだい、どこにもでかけるよていがない**子ども**は、しぜんとがっこうプールにあつまつたようにおもう。およいだあとにこうらぼしをするくりかえしだったけれど、なつやすみをおもいきりたのしんでいるじっかんがあった◆「1がっこうに1プール」といわれるほどせいびされてきたがっこうプールのありようが、おおきくかわっているようだ。けんないのこうりつしようちゅうがっこうで、じこうプールをつかわず、みんかんやこうえいのがいぶしせつです

いえいのじゅぎょうをするじれいがひろがっているという。せんしゅうどうように本紙が1めんどきょういくめんてくわしくつたえていた◆がっこうプールは、60ねんまえのとうきょうごりんにもなうせいふのスポーツしんこうさくやこうどけいざいせいちょうをはいけいにきゅうそくにふきゅうした。それが「おにもつ」になっっている。ろうきゅうかがすすんでしゅうぜんにはたがくのひようがいる。いじかんりをになうきょういんのふたんもおおきい。いまのじだいにあわないのはたしかだ◆**子ども**がへりきょういんがふそくするげんじょうをふまえれば、こゝうがいプールのかつようはこんごもすすむだろう。けんがいでは、いどうのためうんてんしゅがかくほできずにすいえいじゅぎょうそのものをやめるうごきがある。子どもたちがおよぎをたのしみ、みにつけるきかいをどうまもっていくかがっこうまかせにせず、それぞれちいきでかんがえたい。

コラム「斜面」を読んで考えを深めよう

斜面

2024.8.9

ホッキョクグマは訴えた。氷上で狩りができる期間が短くなった。母熊は栄養不足で、子熊の発育も悪い。地球

温暖化を引き起こしている二酸化炭素の排出は「公害」だ。火力発電で大量に出し続ける電力各社は責任を取るべきだ」と◆12年前に東京地裁に起こされた実際の裁判だ。日本と太平洋の島国ツバルの住民らが原告となり、気候変動の影響を受ける動物の代表としてホッキョクグマを加えた。地裁は、熊を当事者能力がないと門前払いにした上で、公害を認めず、請求を退けた◆温暖化対策を国や企業に迫る「気候訴訟」のさきがけとされる。9年前に国際枠組みのパリ協定が採択されて以降、こうした訴訟が世界で急増中だ。欧米では訴えを認める判決も出た。日本では原告の資格が否定されたり、地球全体の問題だからとまともに扱われなかったりする◆そんな中で、14〜29歳の16人が動いた。火力発電事業者10社を相手に、パリ協定の目標に沿って二酸化炭素の排出を削減するように求める訴えを名古屋地裁に起こした。短い記事が7日付本紙に載っている。「気候変動は将来世代の人権侵害だ」と訴えた◆頻発する災害や熱中症のリスクに直面する中で、これからの不安を感じ取っている。にもかかわらず、世界は分断や紛争に振り回され、脱炭素の機運が高まらない。気候変動に立ち向かう若者の訴えに、きちんと耳を傾ける時だ。彼らこそ過酷になるかもしれない未来の当事者なのだから。

① コラム「斜面」を読んで、筆者が言いたいことを簡潔に書きましよう。

② 【意見提示】 「斜面」の内容に対するあなたの意見を書きましよう。

③ 【展開】 あなたの意見の根拠を三つ書きましよう。

()

()

()

伝えたい順番

